

## あとがき

今回の夏期信徒講座は、二つの点で新鮮でした。一つは、ずっと以前にそうであったように、信徒講座の会場を神学校にしたことです。講師やそのご家族をはじめ、参加者の一部の方々も宿泊されて、良き交わりをゆったりと持つことができました。もう一つは、講師となった大会委員会メンバー全員が50歳前後という若手による講座であったということです。

その中で二日間を過ごした私は、まるで青年や学生の修養会に参加しているかのような感覚を抱きました。そうして見出したことは、この度の『80周年宣言』草案は、まさにそのような場で語られてきた言葉の集成なのだということでした。委員長の大西良嗣先生ご自身が講演の中で指摘されたとおり、「今回の宣言作成委員会の特徴の一つは、キャンプ・リトリートなどを通して若者を育てる委員会に長年にわたって属してきた教師が多いということです…。[キャンプやリトリートに参加した]若い世代が信仰者としてまた礼拝者として育っていくために、各個教会の変化ということが必要になってくる」、そのための『宣言』を作ろうとされているのだということです。

そのような『宣言』作成を促した「70周年以後の課題検討特別委員会」報告（2020年10月大会提出）の次の文章は大切です。

これまでの新信条作成に向けての作業や、歴史的な改革派神学の系譜を受け継ぎつつ、わたしたちの教会の福音宣教の活力を呼び起こす、聖靈の力に満ち溢れた言葉、そしてヒューマニズムに代表される人間中心主義、理性中心主義の言葉ではない福音の言葉を80周年宣言として祈り求めたい…。特にこの作業を若い世代の議員たちに託したい。それにより、教派のアイデンティティー（固有性）の確認とヴィジョンの継承が可能となり、さらに新しい時代に向けての展望が開かれていくからである。

この期待に、委員会のメンバーたちがいかに忠実かつ懸命に応えようとしてきたかが、講演を通してよくわかりました。

私たち神戸改革派神学校に与えられている使命もまた、これと同じです。すなわち、“歴史的な改革派神学の系譜を受け継ぎつつ、私たちの教会の福音宣教の活力を呼び起こす、聖靈の力に満ち溢れた言葉…、福音の言葉”を現代社会に語り得る伝道者を養成することです。

その意味で、今回講師を務められた（特に教師の）方々は、そのような神学校教育の一つの成果を示してくださったと言うことができるでしょう。もちろん、そのような言葉を紡ぎ出すことは容易ではありません。まして、その言葉に生き、その言葉によって主の教会を形成していくことは至難の業です。それでも、ただ神の栄光のために、その御国のために献身しようとする者たちを、主が軽んじられることは決してありません。

私たちの神学校もまた間もなく80年の歴史を刻もうとしています。自らのアイデンティティーとヴィジョンを明確にして、今後とも変わらない歩みを続けて行きたい、否、行かねばならぬ。今回の信徒講座は、そんな思いを抱かせてくれる良い機会となりました。

神戸改革派神学校

校長 吉田隆